



けんせつサポート

けんサポ Center News

第53号 2024年12月

ビートです



Contents

センターの仕事：品質管理室
：技術部
：インフラマネジメントセンター

お知らせ：G空間セミナー
産学民官の連携：岐阜県自然共生工法研究会

【センターの仕事】 品質管理室

☎:058-277-1134

開設の目的

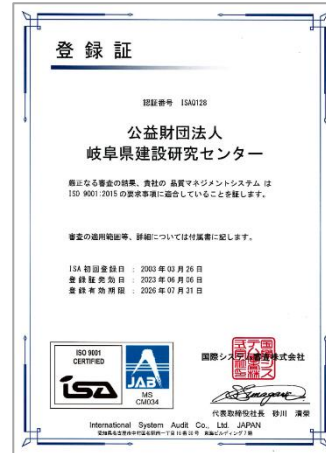
センターでは、平成15年3月にISO9001登録を行い、ISO9001のマネジメントシステムに基づき品質の確保に努めてきました。

また、平成17年に施工された「公共工事の品質確保の促進に関する法律（品確法）」に基づく発注者支援団体に県内で唯一認定されました。

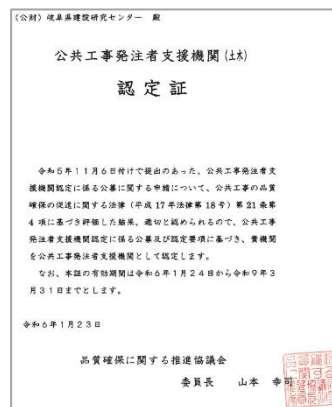
そこでセンターでは、「高度な技術」「丁寧な対応」「確かな信頼」を行動指針に決めました。

特に品質確保については、最重点課題とし、センターの実施する設計・積算・現場管理・橋梁点検などの業務の品質の確保を目的とする品質管理室を令和6年4月に開設しました。

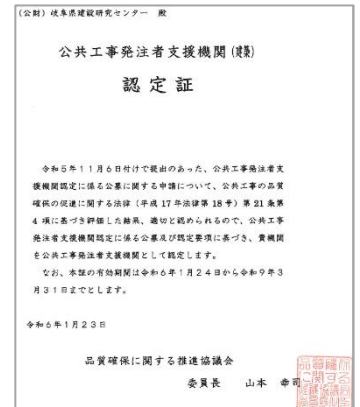
【ISO9001:2015 登録証 平成15年3月】



【品確法に基づく発注者支援団体認定証】



(土木)



(建築)

品質管理室の業務

品質管理室の業務は次の通りです。

① 管理責任者としてISO9001:2015の維持更新に関すること

ISO9001を維持するためには、外部審査機関における毎年実施される維持審査と3年ごとの更新審査を受ける必要があります。

品質管理室では、審査の準備と対応、審査結果に対するマニュアルの改訂などの対応を行います。

② センターで実施した業務についての「設計レビュー」と「納入検査」に関すること

センターで実施する業務については、これまで照査技術者による照査と、納入検査員による納入検査を実施してきましたが、今年度からは

- ・管理技術者、及び担当者によるチェック
- ・照査技術者による照査
- ・業務関係者に所属長等を加えた設計レビュー
- ・品質管理室による納入検査

の4段階で実施することとしました。

このことにより、「ミスが起こりにくくする」「ミスをすぐに発見できる」業務体制をつくることができると考えて変更しました。

③ 若手職員の教育

センターでは近年、職員の採用にも力を入れ数年間で10名ほどの職員を採用しました。

これらの若手職員が、センターが行う積算・現場管理・点検などの業務を一日でも早く理解し、担当できるように、積算や土木一般についての教育や測量士補・施工管理技士・技術士補等業務関連資格の資格取得のための内部職員研修を実施しています。

なお、今後はこの内部職員研修の経験を活かし、市町村新規採用技術職員を対象にした積算や土木一般に関する研修の実施について検討したいと考えています。

建設事業総合支援

センターは設立当初から行ってきた設計・積算支援に加え、県・市町村等が抱える行政課題の解決に応えるために、公共調達に係るあらゆる場面に対応し、総合的、一体的に建設行政を補完・支援しています。技術部では、主にインフラの整備に係る積算支援や工事の監督・検査支援を行っています。また、災害発生時には、調査・設計・積算・査定臨場などに対応し迅速な復旧を支援しています。

積算業務

積算は、設計の内容を把握し、歩掛や単価を正しく適用して予定価格の算出を行う業務です。

センターでは、道路や河川、下水の積算だけでなく、ダムやトンネル、橋梁などの大規模かつ重要な構造物の積算も行っており、積算対象は年々多様化しています。

近年は、建設現場における生産性向上の取り組みとして、新工法や新技術の活用が増えており、積算ルールも複雑化し、難易度も上がっています。そのため、センターでは、研修への参加や現場での確認などにより、積算スキルの向上に努めています。



積算業務の様子

工事監督・検査支援業務

工事監督とは、建設業者に発注した工事が、法令を守りながら安全に施工しているか、品質が確保されているかを確認する業務であり、公共工事に欠かせない業務です。

近年、県・市町村の公共工事に携わる人材が減少する一方で、監督業務は複雑・多様化しています。

そのため、監督員には経験と技術力が求められ、業務の対応は負担が大きいものとなっています。

センターでは、長年培った経験と技術力を活かし、発注者が行う工事監督・検査業務を支援することで、公共工事の品質を確保します。



道路改良工事 現場監理業務



遊水池整備工事 現場監理業務

災害復旧支援業務

毎年のように、豪雨や地震などにより、全国で大小様々な災害が多数発生し、ニュースや新聞などで見聞きすることが多くなっています。

道路や河川などで災害が発生すると管理者は1日も早い復旧のため、必要に応じて国庫負担を申請し、災害査定を受けます。時間がかかると被害が拡大するおそれがある場合などには、災害査定を待たずに応急工事を実施することもあります。

災害復旧は、事業制度を十分に理解した上で、経験とスキルを生かし、適切かつスピード感を持って行う必要がありますが、市町村では、技術職員の減少や若年化により、その対応が大きな負担になります。

センターは、市町村からの要請に応え、大小様々な災害復旧の実務に携わることで経験を積むとともに、最新の制度に触れ、技術の研鑽に努めています。

“業務委託に至らないような技術的な相談”から“業務委託としての応援”まで、様々な要請にお応えします。



道路災害復旧事業 災害現場踏査の様子

技術部のメンバー



アセットマネジメント支援事業を行っています

インフラマネジメントセンターは、国の動向に対応した橋梁定期点検の質の確保（健全性の診断に係る技術的根拠）と点検支援技術の活用促進に寄与するとともに、これまでと同様に、橋梁点検をはじめ橋梁長寿命化修繕計画策定、橋梁補修工事積算・現場監理など橋梁に関する維持管理業務を支援し、市町村の皆様から信頼を得られる成果を提供しています。

岐阜県内の市町村が管理する橋梁は、2万橋以上あり、センターではこれまで34市町村の橋梁点検を支援し、38市町村の長寿命化計画策定の支援をしてきました。

当センターでは、現地の制約条件に応じた橋梁点検の方法についても提案することができますので、橋梁点検についてご不明な点があればお問い合わせください。



国重要文化財美濃橋の高所特殊技術による点検状況



大型点検車（AB-1500）よる点検状況

発注者支援事業の紹介（R5上原橋橋梁補修工事積算・現場監理業務）

工事概要

本工事は市道根尾810号線に架かる上原橋の橋梁現場塗装工事です。対象橋梁は氷点下になる積雪地域にあり、塗装工事をする上での現場内の温度管理・湿度管理が必要となります。本工事においては、足場内に小型ジェットヒータを設けることにより塗装時の外気温を一定にすることで品質を確保しました。



寒冷地における塗装の品質確保は難しく、温度・湿度だけでなく立会時に塗装の施工状況や塗装後の外観にも注視して確認を行った。特に結露や雪解けの伝い水による塗料の硬化不良、塗膜欠陥のある箇所については、工事受注者に対して厳格な指導を行い、塗膜の上層に影響のないよう是正処置を行った。

現場技術員 今尾友祐



- 工事名 R5上原橋橋梁補修工事
- 工期 令和5年6月～令和6年3月
- 発注者 岐阜県本巣市都市建設部建設課
- 工事内容 上原橋 L=48.0m W=4.6m
橋梁現場塗装工 A=320m²
足場工 N=1式

【お知らせ】G空間セミナー2024 in GIFU 開催しました

ふるさと地理情報センター ☎:0584-81-1357 ✉:GIS@gifu.crcr.or.jp

10月17日(木) 今年も多くの方にご参加いただき、無事G空間セミナーを終えることができました。

今回のテーマは「GISで加速する自治体DX ~GIS活用で解決できる課題とは~」と題して中部大学副学長 福井弘道先生の基調講演を始め、自治体DXに直結する県内外の3つの事例についてご講演いただきました。

行政業務におけるDXをGIS利活用から考える有意義なセミナーになったと思います。

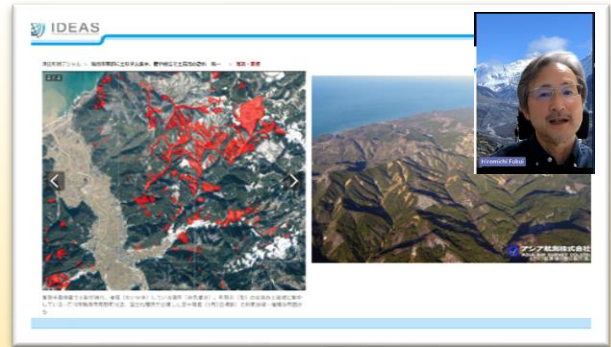
今後も、ふるさと地理情報センターではG空間セミナーや県域統合型GISを通じ県内自治体のサポートを行ってまいります。

■ 基調講演

中部大学副学長 国際GISセンター長 福井弘道氏

■ 事例発表

- ①「衛星画像を活用したAI漏水調査」(豊田市上下水道局)
- ②「いのししマップぎふ」(岐阜県農政の家畜防疫対策課)
- ③「受付処理システム」(岐阜県建設研究センター)



基調講演: 中部大学副学長 福井弘道氏



事例発表②: 豊田市上下水道局 岡田俊樹氏

【産学民官の連携】 岐阜県自然共生工法研究会

【事務局】岐阜県建設研究センター 企画部

ホームページ <https://shizenkyousei.jp>



センターは、岐阜県自然共生工法研究会(以下、「研究会」という。)の事務局を担っています。

研究会は、岐阜県が進める「自然の水辺復活プロジェクト」推進のために、産学民官が協働して、「自然共生工法の実践研究」「自然共生工法の担い手の育成」などの活動に取り組んでいます。



活動の一つとして、自然との共生に関する知識を高めるための『植物生育や魚類生息環境についての勉強会』を研究会員向けに開催しています。

自然共生についてご興味のある方
研究会に入会し、一緒に学びましょう



植物生育環境勉強会

令和6年10月4日(金)に、環境省重要里地里山に指定された「大洞すずろしの里」で勉強会を開催しました。

「大洞のすずろしの里」を自分たちの宝として大切に守り、次の世代に引き継ぐために、「大洞の里山つくり会」が行っている里山環境の再生・維持・管理・活用状況について、現場を歩き、体感しました。

さらに、岐阜県の里山の植生や岐阜市内の環境保全活動団体の活動内容についても学びました。



編集・発行 公益財団法人 岐阜県建設研究センター担当 : 企画部 北神・河村

TEL 0584-81-1332 FAX 0584-81-1352 <https://www.gifu.crcr.or.jp>

